

平成 30 年度第 3 回「千歳市子ども・子育て会議」会議録

日 時	平成 31 年 2 月 25 日（月）10 時～11 時 30 分	
会 場	市役所第 2 庁舎 会議室 5・6	
出 席 者	委員 ※50 音順	市（事務局）
	委員 青砥 三枝子	こども福祉部長 上野 美晴
	委員 吾田 富士子	こども福祉部次長 島津 一久
	委員 石岡 くに子	こども政策課長 久保田 健司
	委員 上田 純恵	こども政策係長 井鳥 秀司
	委員 大関 恵子	保育係長 金井 貴史
	委員 倉田 真智子	こども政策係主任 石井 彰子
	委員 児玉 美津子	こども政策係主任 村井 友紀子
	委員 三溝 昌宏	市（関係部署）
	委員 谷掛 亜紀	こども家庭課長 藤木 健一郎
	委員 辻 裕子	子育て総合支援センター長
	委員 西 博康	磯部 由起子
	委員 松浦 まゆみ	こども療育課長 新谷 正
	委員 三浦 朋美	保健福祉部母子保健課長
委員 森本 麻美	山谷 奈奈子 主幹（産前産後ケア担当）	
	渡辺 幸子 教育委員会企画総務課長	
	伊藤 樹美	
	オブザーバー	
	株式会社サーベイリサーチセンター	
	石橋 拓馬	
	林 梢子	
事 務 局	こども福祉部こども政策課	
会議の公開	公開	
傍 聴 者 数	1 人（千歳民報記者）	

## 1 開会

（こども福祉部長あいさつ）それでは、会議の開会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

この度は、吾田会長をはじめ委員の皆様にはお忙しい時期にも関わらず、ご出席いただきありがとうございます。また、日頃から子ども・子育て支援にご尽力いただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。子ども・子育て支援アンケートの

実施に当たりましては、前回の会議で皆様から頂いたご意見を可能な限り反映させ、5年前の調査時を上回る回答を得ることができました。このことは、皆さんの熱心な審議のお陰でありますとともに、子ども・子育て支援行政に対する市民の関心・期待の高さの表れでもあり、計画策定に向け身の引き締まる思いであります。本日の会議では、アンケート調査結果の概要と、本年4月からの保育定員についてご審議をいただきます。来年度から5年間の保育の量の見込みの設定につきましては、次回以降の会議でご審議をいただくこととなりますが、アンケート結果を分析し、幼児教育・保育の無償化が保育ニーズに与える影響を見定め、今後必要となる保育定員を適切に設定し、新たな計画に反映させてまいりたいと考えております。今後とも、皆様の御協力をよろしく願いいたします。本日も忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

## 2 議事等

委員数 16 人中 14 人の出席につき、会議が定足数（委員の半数以上の出席）を満たしていることを確認。

会長により議事進行。

（会長）皆様、おはようございます。段々と春に近づいてきておりますが、先日の地震で改めて昨年の教訓が思い出されました。過去から学び、確実に一步を踏み出していくことがこの会議の役割だと思っています。事前送付のあったアンケート調査結果概要では、千歳市に住み続けたいかという項目もございました。市民の声を生かし、小さな声を大事にしながら、一歩ずつ前に進めてまいりたいと思います。本日もよろしく願いいたします。

議事等（1）「千歳市子ども・子育て支援アンケート調査結果概要について」

株式会社サーベイリサーチセンターから「資料1」により説明

（会長）今回は小学生の回収率がより高く、5年前に「就学前の子どもの保護者」として回答された意識の高い方が、今回は「小学生の保護者」となり 55.5%と高い回収率が出たのかなと思いました。細かい点としては、設問中にある「おしめ」という表現は古いように感じました（P3 就学前 問15）。P18では「普通」の回答が非常に多く、制度や事業について知らないか、関心が無い可能性があります。アンケート項目として挙げることで市民の意識を高める効果はあると思いますが、回答者の方はわかっていないのだろうと感じました。

（A委員）皆さんで一生懸命話し合って頑張っているのに、「普通」の回答が多いことは残念に思いました。「普通」と回答した方たちに、「千歳に来て良かった」と感じてもらえる出来事があれば良いと思います。

- (B委員) 私の家にも調査票が届き、回答しました。私自身は千歳で生まれ育ち、比較する情報が無いため「普通」と回答した項目もありました。
- (C委員) 前回の会議で調査の実施期間などについて議論をして、もし回収率が下がったらと心配でしたが、回収率が上がって安心しました。「就学前の子どもの保護者」では前回よりも回収率が下がったので、意識的に高めていく必要があると感じました。また、幼児教育・保育の無償化に当たって、10月から保育施設の利用を考えている方が多いと改めて実感しました。
- (D委員) 回収率が約50%というのは他の調査と比べて高い方だと思います。私は札幌や恵庭、千歳で生活してきましたが、千歳は子育てに関する保護者の関心が高いように感じています。アンケート調査を実施すること自体が情報発信にもなるので、継続していくと良いと思います。
- (E委員) 回収率が高くて良かったです。5年後にはもっと上がるのではないのでしょうか。
- (F委員) 私が以前住んでいたまちは、子育てがしにくいまちでした。千歳は子育てがしやすいまちです。「普通」と回答した人の中には、千歳のことしか知らないという人も多いのだと思います。
- (G委員) 次期計画策定の参考となる結果だと思います。この結果を分析して盛り込んでいけたらと思います。
- (H委員) 保育所等を利用する保護者の中には、無理をして早い時期に仕事に復帰される方を見受けられます。P15の育児休業からの復帰時期に関する設問において、希望より早く復帰した方のうち、その理由を「希望する保育所に入るため」と回答した方は33.3%で、5年前の14.9%よりも多くなっています。そのような方について、この会議でも考えてあげたいと思います。
- (I委員) P13の小学生の放課後の過ごし方について、「⑦放課後子ども教室」は現状の利用日数と希望日数の差が大きいため、今後増やしていただけたらと思いました。
- (J委員) 市は「子育てするなら、千歳市」と掲げていますが、P17、18「千歳市の取組に対する満足度」を見ると、現状は厳しいと感じています。就学前(P17)では「①安心して妊娠・出産を迎えるための環境づくり」は満足度の高い取り組みの一つとなっていますが、同時に、満足度の低い取り組みの一つでもあります。千歳出身の方と転勤族の方で差があるのかもしれませんが。小学生(P18)では「⑨働く親が利用できる子育て支援事業の推進」の満足度が低いと出ていますが、こういった内容のことだろうかと思いました。以前、小学生が遊べる場所がないという話が出たかと思いますが、まだまだやらなければならないことがたくさんあると考えさせられました。
- (K委員) 前回の会議で話し合ったことが調査に反映されたと思うと、有意義であった

と思います。「就学前の子どもの保護者」の回収率が下がったことは、それだけ働く親が増え、時間の使い方が厳しくなっているのだらうと思うと、次回調査を実施する際には、設問の量や実施時期について改めて考えていく必要があると思います。

(L委員) P10「千歳こどもデイケアルームの認知状況」について、せっかく事業を実施しているのに就学前・小学生ともに半数前後が「知らない」と回答していることが気になりました。使い勝手が重要なのではないのでしょうか。私自身、子どもの病気で困った経験があり、デイケアルームを必要とする方は多いと思います。また、P13 小学生の放課後の過ごし方について、「④児童館（自由来館）」の現状と希望の差が大きいのはなぜだろうかと思いました。

(M委員) P17, 18「千歳市の取組に対する満足度」について、就学前では「満足」が比較的多い印象を受けました、市の取組が評価されているのだと思います。一方、小学生では「やや不満」が多くなっている項目が増えています。千歳に転入してきた方の中には新興住宅地に家を建てる方が多くいますが、北陽小学校区は生徒数が多く、先生たちは日々のことに疲弊しており、どのくらい子どもの心や保護者の悩みに踏み込んでいるか心配です。子どもたちが良い環境で、学校も放課後も安心して過ごせるように、子どもの減ってきている校区に子どもを増やすことはできないか、一部の地域の子どもの親、学校の先生にばかり負担がかかることがないように、市全体として考えていかなければならないと思います。また、子どもの数が多いほど、保育所等と小学校の連携が重要になります。小学生の保護者の満足度が上がるような取り組みを、市全体として、今後10年、20年計画で考えていければと思います。

(会長) アンケート結果について、市としてはどのように受け止めていますか。

(こども福祉部長) 本日は結果の概要報告ということでお示ししており、分析は今後行ってまいります。P17, 18「千歳市の取組に対する満足度」は、市がこれまで「子育てするなら、千歳市」として取り組んできたことに対して当事者の生の声をいただくために新たに追加した項目です。皆様のご指摘のとおり、「普通」の回答が多かったことは、比較対象を知らないからであったのか、諦めのようなものであったのか、見方は様々あると思いますが、結果を真摯に受け止め、行政の自己満足とならないよう、施策に反映させていきたいと考えております。

(会長) 「満足」と「やや満足」と合わせた「満足群」、「不満」と「やや不満」を合わせた「不満足群」に分け、それぞれの群が他の設問にどのように回答しているかを分析することで、立体的に理解ができると思います。また、千歳こどもデイケアルームやこども食堂は、利用者が増えれば良いという性質のものではないので、本当に利用したい人が利用できているのか、小さい意見であっても拾っていく必要があります。例えば、P2「今後、もう一人子どもを産むために心配なこと」では、「経済的な理由」「年齢的な理由」「今いる子どもの子育てで手いっぱい」の3つ

が主に挙げられていますが、「心理的な理由」「健康上の理由」なども一定数挙げられています。こういったことについて市の取組は十分なのか、また、P16「将来的な千歳市への定住意向」では、生活の場として、子育て以外の要因を示唆される部分もあろうかと思えます。最終的な調査結果は今後どのように公表されますか。

(こども政策係長) 今後、クロス集計や5年前との比較を含めた分析を行い、千歳市子ども・子育て会議に諮らせていただきます。

(会長) 放課後の過ごし方を本格的に考えていかなければなりません。子どもの学力や体力について千歳市の状況はいかがですか。

(企画総務課長) 千歳の小学生の学力は全道並みですが少し低く、体力は全道・全国より少し高いです。

(会長) 親が安心でき、子どもが成長できるようにするにはどう過ごすのが良いか、質を上げるためにどうしていったら良いか、家庭、幼稚園・保育園、学校、皆で連動して考えなくてははいけません。

#### 議事等(2)「平成31年度教育・保育施設の利用定員について」

千歳市子ども・子育て会議条例施行規則第2条第4号の規定により、決議に利害関係を有する6名の委員が一時退席した後、こども政策係長から説明。

(審議内容については、千歳市情報公開条例第9条(5)の規定に基づく非公開事項につき、省略。)

議事等(2)について、事務局提案どおり可決となり審議終了。

(会長) それでは、以上で、本日の私の担当部分である会議の議事進行はすべて終了させていただきます。今日も皆さんといろいろなこととお話しさせていただきながら、子どもたちにとって幸せな社会は、育てる大人にとっても幸せな社会でなければならないと感じました。トータルとして考えたときの子育て支援の在り方、教育や医療、福利厚生などの各分野において、このまちはどうなのかということを見据えていかなければなりません。教育・保育の「質」についても、地域に目を向け、困ったところに心を寄せていかないと間違った方向に行ってしまうと改めて考えさせられました。委員の皆さんも、行政の皆さんも、それぞれの立場で、自分の管轄を越えて触手を伸ばし、何が必要なのか考えていければと思います。インフルエンザも流行りましたから、体調や地震にも気を付け、年度末・年度初めの大切な時間を子どもたちと共に過ごせたらと思います。

(こども政策係長) それでは、これを持ちまして、平成30年度第3回千歳市子ども・

子育て会議を閉会します。本日は、ありがとうございました。

### 3 閉会 (11時30分、終了)